

居場所プロジェクトの進行管理

令和4年度	令和5年度	
12月	4月	5月
<p>平野会長との意見交換会の</p> <p>若年性認知症の関わりについてプロジェクト提案。</p> 	<p>居場所プロジェクト始動！ 第1回打合せを開催</p> <p>・若年性認知症の方が人と関わる機会を増やすにはどうすればいいか。 ・居心地のいい新たな居場所を創出してはどうか。 ・若年性認知症の方以外にも生きづらさを抱えている方はたくさんいる。</p> <p>↓</p> <p>あらゆる方がふらっと来れる居場所を作ろう</p> <p>※既に居場所を運営している方へ話を聞こう。</p>	<p>居場所運営団体へヒアリングを実施 (たんぼの風、ワンぼていと、一服亭かちがわ) ・利用者のニーズ、居場所運営のノウハウ、課題・困りごと等を聞き取り。</p> <p>ヒアリングでわかったこと</p> <p>・居場所の運営には、資金面・人材面が課題 ・継続して居場所を運営するためには、居場所運営の担い手が必要。</p>  <p>写真：たんぼの風</p>
		<p>第2回打合せを開催</p> <p>・ヒアリング内容の報告 ・資金、人材がない中で居場所を新たな創出することは難しい。 ・新たな居場所の創設ではなく、地域資源を居場所として活用できないか。</p>
		<p>第3回打合せを開催</p> <p>モデル事業として、課題を抱えている方が地域団体の活動へ参加できるように支援してみよう！</p>
		<p>第4回打合せを開催</p> <p>・活動の報告 気づき ・障がい者に対する理解が普及していない。 ・活動団体へ参加を支援する話をする際には、団体が不安にならないような説明などの配慮が必要。 ・地域で困っている方を支えたいという想いを持っている人は多くいる。</p>
		<p>第5回打合せを開催</p> <p>・持続的な活動参加には、サポーター（活動へ伴走する役割）が必要 ・対象者のニーズにあう団体を紹介できるように、居力団体のリスト作成が必要。</p> <p>③Cさん (手芸が得意で、特技を通じた地域住民との交流機会を希望) 交流系サロン 成功♪ 意見：秋祭りの展示ビッタリ。活動は会話が中心なので、マンネリ化する。制作活動があることはうれしい。 10/28 秋祭り参加</p>  <p>展示会参加者より、「楽しませてもらった」、「作った人に会いたくなった」、「一緒に作りたい」等の声が挙がった。 令和6年度1月又は2月頃に作品作りを行う予定。</p>
		<p>①Aさん (なかなか就労に定着できない元料理人。料理を通じて、触れ合える場を希望)</p> <p>7/7 初参加。地域福祉コーディネーターが付き添い、参加。 8/4 2回目参加。活動の中で、団体会員が積極的に声をかけたり、一緒に作業をしてくれる様子が見られた。 9/8 3回目参加。団体から「参加に問題はない」、「今後も参加してもらえば」という声が挙がっている。</p> <p>7/7 初参加。地域福祉コーディネーターが付き添い、参加。 8/4 2回目参加。活動の中で、団体会員が積極的に声をかけたり、一緒に作業をしてくれる様子が見られた。 9/8 3回目参加。団体から「参加に問題はない」、「今後も参加してもらえば」という声が挙がっている。</p> <p>②B団体（発達、知的等の障がい児が日常活動を通して地域住民と交流できる場を希望) 茶話会系サロン 成功♪ 意見：子どもの少ない街なので、子どもの声を聞ける機会を増やしたい。 8/5 初参加。支援者及びコーディネーター立会で参加 8/26 支援者の立会で参加 8/28 茶話会系サロン 代表者より 「放課後等デイサービス」からの参加者予定より多く、子どもの遊び場ようになってしまった。参加の趣旨とルールを再考したい」との申し出あり。 9/6 茶話会系サロン代表者、放課後等デイサービス、社協の三者で協議し人数制限や団体会員の中で負担の偏りを軽減するルール作りを行った。</p>  